



2012 公民館案内

No 1 6

松戸市矢切公民館



自主企画講座 まつど生涯創年の会

新しい知識を身につけよう

1回目 公正証書でトラブル防止

講師 松戸公証役場公証人 小林 健二氏

2回目 在宅医療

講師 島村トータル・ケア・クリニック 島村 善行氏

3回目 ITの現状、そして課題

講師 松戸ITVネットワーク



受講者の感想から

- ・ 身近な問題についての解説が良かった。
- ・ 内容が平易で理解しやすかった。
- ・ 普段インターネットにそれ程接してられない主婦は、初歩から行うことが難しい。今回の講義で、固かった入り口を少しやわらかくして入りやすくしてくれたと思う。
- ・ 公正証書(遺言、相続)は、今後非常に役立つわが身の事として、自分なりに対処したい。
- ・ 今までと違った新しい感覚で物事が見られました。



2012

公民館案内

松戸市矢切公民館

No17



成人講座

防災講演会（防災課共催） 1月17日 会場：市民会館

「首都圏を襲う巨大地震、 いま家庭や地域で考える危機管理」

講師 防災・危機管理ジャーナリスト 渡辺 実氏



平成7年に発生した阪神・淡路大震災を契機とし、更に平成23年3月11日の東日本大震災を受けて、松戸市では「私たちは忘れない！あの時の大震災を！！」と銘打ち、1月17日を地震災害の再認識の日位置付け、市民並びに職員が自主的な防災活動について認識を深めるとともに、いつ起こるかわからない災害への備えの充実強化を図ることを目的として、防災講演

会を毎年行っています。

今回講師の渡辺実氏は防災・危機管理の仕事に30年以上携わっており、2008年四川省大地震など世界の被災地へも足を運び、現場体験をベースに、災害報道の検証や防災対策についても国民サイドに立った辛口の提言を続けておられます。

講演会では、メインテーマに基づいて、『3.11以前にはもどれない！』『3.11以降の日本列島は！』『首都直下地震が襲ってくる！』『帰宅難民にならないために！』『渡辺流「生き残りマニュアル」(家庭版)』について、災害に直面したときの心構え、行動の仕方、生き延びる術等々をわかりやすくお話していただきました。参加者からは、次のような感想が寄せられました。

- ・トイレ対策や飲料水のお話、目からうろこでした。全体的に具体的なお話が多く、すぐに取り入れられるものばかりでした。
- ・自助、公助、共助と言いますが、まず自助すること、死なない・怪我をしないこと、そのための準備をする。
- ・認識が深まった。また、近所の方々への対応もできそうで大変良かったです。
- ・帰宅難民にならないための理由や具体的な「生き残りマニュアル」での対策等、改めて認識しました。



2012

公民館案内

No18
松戸市矢切公民館

公民館「親子特別講演会」

ファミリーマジックショー

講師 松戸奇術会

1月26日（土）松戸市民劇場で、松戸奇術会の梅田光男氏、梅田美紀江氏、菊池俊幸氏を講師とし、親子間のコミュニケーションを深める機会となることを願って“ファミリーマジックショー”（難しい技法を使わない簡単おもしろマジックショー）を行いました。

ショーの後半には簡単なマジックを教えてもらい、子どもたちも大喜びでした。





第3回 家庭教育学級 連絡会

1月10日（馬橋地区） 11日（松戸地区） 2月1日（常盤平地区）

2012年度も残すところ2ヶ月弱となりましたが、今年度実施してきた学習内容の振り返りや来年度に向けての話し合いと諸連絡を兼ねて、地区別の連絡会を実施しました。

【内 容】

1. 報 告

・学級長研修会 ・第2回情報交換会 ・まつどまなびいネット

2. 事務連絡等

・学習記録の原稿提出 ・ファイルの返却 ・閉級式 ・講座案内 他

3. 情報交換





家庭教育学級 情報交換会

家庭教育学級推進上の課題等の解決に向けて、市内小学校44校の代表6校の学級主事（教頭先生）・運営委員（学級長・副学級長・会計など）と公民館長・担当者として、年間3回の会議を行いました。

今年度は、各校の課題に基づいて3つのテーマを決定して話し合いを深め、来年度の家庭教育学級推進に向けての方向性を発信しました。

《テーマ及び推進に向けての方向性等（抜粋）》

- 1 運営面（よりよい運営方法、委員）
 - ・運営の手伝いとして学級生に参加を募り、運営委員の仕事がそれほど大変ではないということを認識してもらい、協力を仰ぐ。
- 2 学級生数の確保（増加）
 - ・学級生の確保には“ロコミ”が有効である。運営委員が在校生の保護者へ、良さや活動をアピールする。
- 3 学習面（講座の内容、企画担当者）
 - ・ベテランと新人の組み合わせで講座を担当すると良い。また、学級生の人数により企画担当者が違っていい。

〈学級生多：運営委員が中心となり企画、少：学級生が話し合って企画〉

* 代表校：東部小、松ヶ丘小、高木小、河原塚小、八ヶ崎小、馬橋北小

